

朝鮮語

伊藤 英人

1. アンケートに答えるに先立って

最初にアンケートへの答えに先立って、朝鮮語のムードに関して最低限必要な事項について、語史の観点からごく簡単な概観を行いたい。

朝鮮語には動詞と形容詞の一次的区別はなく語形も区別されないため、以下両者および存在詞(いる, ある)及びコピュラと併せて「用言」と称する。用言のムードは、終結語尾(日本語の用言終止形諸形式、及びそれらに終助詞のついたものにほぼ相当する)、接尾辞(日本語の助動詞にほぼ相当する)、分析的諸形式(2文節以上が固まって文法化した分析的形式の諸形式)等によって表される。アンケートの例文番号を[1], それ以外の例文は(1)のように示す。

朝鮮語のムード形式はアスペクト的、テンスの意味を兼ねており、後期中世朝鮮語(十五・十六世紀の朝鮮語, 以下, 中世語)では特にそうであった。その後現代語(二十世紀以降)に至る過程で、元来パーフェクトを表した分析的形式{-e is-}が過去接尾辞{-ess-}へと変り¹⁾、一方でアスペクト形式が整えられていく。しかし、現代語の分析的ムードの多くに含まれる連体形には、中世語以来のテンス・アスペクト・ムードが一体化した形式が用いられているので、以下でまず、連体形の諸形式を見ることにする。

中世語の連体形、終止形は以下のようなパラダイムをもつ。²⁾

	連体形	終止形	日本語訳(終止形)
不定法	ho-Ø-n	ho-Ø-ta	した
直説法	ho-no-n	ho-no-ta	する/している
回想法	ho-te-n	ho-te-la	していた
確認法	ho-ke-n/ho-ya-n	ho-ke-ta/ho-ya-ta	したわ
推測法	ho-l	ho-li-la	するだろう

終止形の諸形式に見られるように用言語幹と下称陳述形語尾{-ta~-la}の間に現れる接尾辞{-Ø-}, {-no-}, {-te-}, {-ke-/-e-}, {-li-}の交替によって「～法」が区別される。「法」という名づけであるが{-Ø-}, {-no-}, {-te-}, {-li-}の区別はテンス・アスペクトに関わる。動作性用言の場合{-Ø-}, {-no-}, {-te-}はそれぞれ「点的過去 aorist」, 「現在 present」, 「線の過去 imperfect」の機能をもつ。状態性用言(形容詞)に{-Ø-}がついた形は「現在の状態」を表す。

接尾辞{-Ø-}, {-no-}, {-te-}, {-ke-/-e-}, {-li-}のうち、アクセントの観点から見て{-no-}, {-te-}, {-ke-/-e-}は本来自立的な用言語幹が文法化したものである可能性が高い。一方、

{-li-}は未実現連体形語尾{-l}に形式名詞{i}とコピュラ{-il-}が付いたものである。{-no-}は「ことがらを眼前でアクチュアルに成立しつつあることとして述べる」、{-te-}は「過去の出来事の中に立ち入って聞き手にリポートしつつ述べる」、{-ke-/e-}は「すでに実現していることがらを話者が自分自身に納得させるように独白的に述べる」、{-li-}は「ことがらがまだリアルな世界に入っていないものとして述べる」、接尾辞ゼロ{-Ø-}すなわち用言語幹そのものは「時間的に限定されていないことがら(但し動作性用言の場合は過去に1回的に生じたことがら)を述べる」という基本的意義をもつ。

これら接尾辞の形式は連体形{ho-Ø-n, ho-no-n, ho-te-n}でも平行的であり、その形式と機能は現代語の連体形{ha-Ø-n, ha-nu-n, ha-te-n}にそのまま引き継がれている³⁾。推測法ho-li-laの接尾辞{-li-}(推測, 意志, 未実現)は連体形では語尾{-l}と交替する。現代語の終止形では{-li-}は接尾辞{-keyss-}に取って代わられたが、連体形においては形式及び機能が現代語でも保たれている。

現代語連体形における{ha-Ø-n, ha-nu-n, ha-te-n, ha-l}「した, する, していた, するであろう」の区別が、朝鮮語の相対テンス・アスペクト・ムードの最も基本的な区別である。連体形語尾では{-n}(既然規定)と{-l}(未実現規定)が最も原初的な対立をなし、{-n}(既然)の前には{-Ø-}, {-nu-}, {-te-}といった接尾辞が入りうること、{-Ø-}すなわち無標の場合、動詞では点的過去を、形容詞では現在状態を表すことが特徴である。

- | | | |
|------------|----------|--------|
| (1) nay-ka | tani-n | hakkyo |
| 私-が | 通っ-た | 学校 |
| (2) nay-ka | tani-ten | hakkyo |
| 私-が | 通っ-ていた | 学校 |

例文(1)と(2)における{-n}と{-ten}, すなわち{-Ø-}と{-te-}の対立は、相対過去テンスにおける aorist 対 imperfect の対立であり、両者の違いは日本語訳に示される通りである。すくなくとも現代語の連体形における{-n}と{-ten}の対立はアスペクチュアルなものをその本質とし、「回想」の意味は派生的なものであると考えられる。⁴⁾上の連体形諸形式は多くの分析的ムード語形形成に参与する。

上述のごとく、中世語から現代語に移行する過程で、存在動詞{is-}(ある, いる)を含む分析的パーフェクトの形式{-ess-}が「過去」と「完了」を兼ねた接尾辞となり、近代以降の文学の地の文には日本語の「タ」のように頻出する。また{-key hoyes-}(～するようになった)というこれまた存在動詞{is-}(ある, いる)を含む語形が近代以降の文典では「未来」として扱われて来た。「過去」と「完了」を兼務する日本語の「タル>タ」と朝鮮語の{-ess-}の成立はよく似た現象だが、日本語の助動詞が「アリ」の助けを借りだした時期がかなり早く、文末終止形のみならず連体形、接続形をも侵食しているのに比べると、朝鮮語史で

の{is-} (ある, いる)のこの方面への進出は時代的にかなり遅く, ムードとテンスが渾然一体となった古い接尾辞群は, 接尾辞としての資格を喪失し語尾の一部になっているとは言え, 今なお健在である.

現代朝鮮語の終止形語尾は「上称, 中称, 等称, 下称」という上下関係に基づく4段階, 「略体上称, 半言」という親疎に基づく2段階の待遇法が区別される. 動詞{ilk-} (読む)の「下称」, 「半言」と「等称」の語形を示せば次の通りある.⁵⁾

	下称	半言	等称	日本語訳
直説法叙述形	ilk-nunta	ilk-e	ilk-ney	読む
直説法疑問形	ilk-nunya	ilk-e	ilk-nunka	読むか
目撃法叙述形	ilk-tela		ilk-tey*	読んでいた
目撃法疑問形	ilk-tenya		ilk-tenka	読んでいたか
推量法叙述形	ilk-ulila			読もう
推量法疑問形	ilk-ulya		ilk-ulkka	読もうか
直説法詠嘆形	ilk-nunkwuna	ilk-nunkwun		読むなあ
目撃法詠嘆形	ilk-tekwuna	ilk-tekwun		読んでいたなあ
直説法婉曲形	ilk-nuntey			読むけど
目撃法婉曲形		ilk-tentey		読んでいたけど
推量法婉曲形		ilk-ulkel		読むだろうけど
確言形		ilk-ci		読む
確認形		ilk-ketun		読むんですよ
命令法実行形	ilk-ela	ilk-e	ilk-key	読め
勧誘法実行形	ilk-ca		ilk-sey	読もう
意志法叙述形	ilk-uma	ilk-ulkey	ilk-umsey	読むから
意志法叙述疑問形		ilk-ullay		読むか
意志法疑問形		ilk-key		読むか

朝鮮語のムード研究は, まず上の一覧における「叙述」, 「確認」, 「確言」などの総合的形式の違いをどう位置づけるかといった終止形の体系を明らかにすることが出発点である. しかる後に接尾辞によって表されるさまざまなムード, その後に分析的形式によって示される「当為」その他の形式の研究がなされるべきだが, その際, 多くの分析的形式に含まれる用言の連体形や接続形の意味記述が必要となる. アンケートを見るとやはり法助動詞等を念頭に置いた項目となっている面がなきにしもあらずだが, これらの多くは分析的形式で表される. 分析的形式に先立って朝鮮語では総合的形式の考察が行われるべきであることを念頭に置いておきたい.

上の一覧の「意志法叙述形」の ilk-uma, ilk-umsey (読むから)に出る {-m-}, {-ms-}は古代朝鮮語から存在してきた意図を表す形態素の名残である。また、確認形 ilk-ketun (読むんですよ)には中世語の確認法接尾辞 {-ke-}が含まれている。

2. アンケートへの答え

以下ではアンケートについて母語話者のコンサルタント 3 名の方の協力を得て知りえたことを記す。⁶⁾ 注釈は対応する日本語形がある場合は日本語を付した。

[1] (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。

(ku il-i kkuthna-myen icey tolaka-(a)to twayyo.
その仕事-が 終わっ-たら もう かえっ-ても 成ります

「～してもよい」は{-eto toy-} lit. -e(て)-to(も) toy-(成る)という形式を用いる。tolaka- (帰る)の代りに単に ka- (去る, 行く)を用いてもよい。

[2] (腐っているから, あなたは) それを食べてはいけない。 / それを食べるな。

(sanghayss-unikka) kyke-l mek-umyen an tway / kuke-l mek-ci ma.
(痛んだ-から) それ-を 食べ-たら 成らない / それ-を 食べる-の やめよ)

「～してはいけない」は{-umyen an toy-} lit. -umyen(～したら) an(否定) toy-(成る)という形式を用いる。

(3) kuke-l mek-ese-nun an tway.

それを 食べて-は 成らない

という言い方も可能である。命令法禁止形は動名詞形成語尾 {-ci}に補助動詞 mal- (<止める)を後置し、階称ごとに命令形に活用させる。{ma}は mal-の半言命令形の特異な活用形である。「ダメ！」と単独で言う際に an tway! (成らない)を用いる事は可能だが、補助動詞 mal-を用いる禁止形は前に何か動詞の動名詞形をつけて ha-ci ma! (lit. するのやめよ)のようにしか言えない。

[3] (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。

(nuc-ess-unikka) icey wuli-nun tolaka-(a)-ya tway.
(遅くなった-から) もう 我々-は 帰っ-て-こそ 成る

義務を表す形式は{-e-ya toy-} (lit. ~て-こそ 成る) , {-e-ya ha-} (lit. ~て-こそ する) という形式を用いる。また,

- (4) tolaka-ci anh-umyen an tway.
帰る-の しなければ 成らない

という日本語と同じような言い方もある。

- [4] (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ。

(pi o-nta-nikka) wusan kaci-ko ka-nun key(< kes-i) coha.
(雨 降-る(言う)-から) 傘 持って 行く-連体現在 のが いいよ

- (5) wusan kaci-ko ka(-a).

傘 持って 行け-半言命令

「~する方がいい」は{-nun kes-i coh-} (lit. ~するのがよい)のように動詞の現在連体形に形式名詞 kes (こと, の)が付き, それに主格助詞と日本語の「よい」に相当する形容詞を付ける。日本語の「~した方がよい」のような過去連体形の形式は出ない。(5)のように単なる命令文で言うことも多い。

- [5] 歳を取ったら, 子供の言うことを聞くべきだ/ものだ。

nulk-umyen casik mal-ul tul-e-ya ha-nta / tul-e-ya ha-nun pep-ita.
老いたら 子供 ことば-を 聞いて-こそ する/聞いて-こそ する-連体現在 法-である

[3]と同じ義務の形式を用いるか, [3]の形式の現在連体形にさらに{pep-ita} (lit. 法-copula)をつけて「原則性」を強調する。言い聞かせるような物言いである。

- [6] (お腹が空いたので, 私は) 何か食べたい。

(pay-ka kophu-nikka) mwe-l mek-ko siph-ta.
(お腹-が 空いた-から) 何か-を 食べ-たい

「~したい」は動詞語幹に{-ko siph-}を付けた形式で表す。{-ko}は接続形(副動詞)語尾, {siph-}は日本語の「~たい」に相当する補助形容詞である。三人称では{-ko siph-e ha-}「~したがる」という形式を用いる。{-ko siph-e ha-}の{ha-}は補助動詞である。日本語の「欲しい」に相当する形容詞がないため, 「買いたい」のか「所有したい」のか区別して言わなけ

ればならない。日本語のように動詞の対象が対格以外に「ガ格」に相当する格助詞で現れることもあるが、日本語よりは制限があるようである。

[7] 私が持ちましょう。

cey-ka tu-lkey-yo.

私-が 持つ-から-丁寧

1で述べた意志法叙述半言形に、略体上称を形成する丁寧助詞-yo が付いた形である。{ulkey}は未実現の連体形語尾に形式名詞とコピュラが付きさらに縮約が起きた形で「約束形」などとも呼ばれる。

(6) nay-ka tul-e cwu-ma.

私-が 持つ-て やろ-う

(7) nay-ka tul-e cwu-msey.

私-が 持つ-て やろ-う

(6)は老人が孫などに、(7)は老人同士ややや目下に対して用いる。{-m-}, {-ms-}は古代語以来、意図を表す形態素として朝鮮語史や諸方言に見え隠れする形式である。この場合{ulkey}と異なり{l-e cwu-}「～てやる」という benefactive の形式を介在させなければならない。[7], (6), (7)はいずれも1人称の意図を表す陳述形であり、疑問形を持たず、推量の意味にも用いられない。

[8] じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。

kulem kathi pap mek-upsita.

じゃあ 一緒に ご飯 食べ-ましょう

{-upsita}は勧誘法実行形中称の形である。下称なら{-ca}を用いて

(8) pap mek-ca.

ご飯 食べ-よう

となる。等称勧誘形は余り用いられないが{-sey}を付けて

(9) pap mek-sey.

となる。{-sey}は中世語の上称勧誘形{-sangita}に由来する形式である。

[9] 一緒に昼ごはんを食べませんか？

kathi cemsim an tusi-llay-yo?

一緒に お昼 否定 召し上がる-意志法叙述疑問形-丁寧

{-ullay}は意志法叙述疑問半言形であり、話者の意志を述べたり聞き手の意志を尋ねる形式である。[9]の tusi-llay-yo はそれに略体上称を形成する丁寧助詞-yo が付いた形である。{-ullay}を叙述形として[7]に用いると、相手の意志を忖度せず「持つんだもん」という子供の発話のように感じられる。[9]は否定副詞と尊敬語を用いており婉曲な表現となっている。

(10) siksa-ha-ci anh-keyss-e-yo?

食事-する-の しませんか

{-key hoya is-} (lit. すべくなっている)の文法化の結果として形成されてきた接尾辞{-keyss}を分析的否定文で用いた例文(10)も婉曲な勧誘である。

[10] 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。

nayil nalssi-ka coh-umyen coh-keyss-ney/ nail-un nalssi-ka coh-a-ya ha-l the-yntey

明日 天気-が よければ よさ-そう-ね/ 明日-は 天気-が よく-て-こそ す-べきはず-であるが

{-umyen coh-keyss-} (lit. ～ならよさそうだ)が日本語の「～だったらいい」に相当する形式である。例文[10]はそれに詠嘆形半言語尾{-ney}が付いた形である、{-umyen coh-keyss-}の前に「過去」を表す接尾辞{-ess-}を入れてもよい。後者の文は[3]で見た義務の形式の未実現連体形に「はず」を意味する形式名詞{the}が付き、さらにコピュラと婉曲半言の語尾が付いた形である。

[11] これはあの人に持って行かせろ。／持って行かせよう。

ike-n ku salam-hanthey tully-e ponay-la/ tully-e ponay-ca.

これは その 人に 持たせ-て送-れ / 持たせ-て 送-ろ-う

「持って行く」tulko ka-の使役は「持たせて送る」となる。文末の語尾はふつうの命令形、勧誘形である。

[11'] (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。

(na yeki-se kitali-l the-y-nikka) palo kuke-l kaci-ko wa.

(私 ここ-で 待つ-未実現連体形 はず-である-から) すぐ それ-を 持つ-て 来い

「持って来る」 kaciko o-の半言命令形である。

[12] そのペンをちょっと貸していただけませんか？

ku pheyn com pilly-e cwu-si-keyss-e-yo?

その ペン ちょっと 借りて くれる-尊敬-意志推量-半言疑問-丁寧

動詞の「連用形・テ形」相当の形に「与える」cwu-が付くと benefactive 「～てくれる」, 「～てやる」の意味になるが, 動詞「借りる」pilli-にこれが付くと全体で「貸す」の意味になる。[12]は, それに尊敬接尾辞, 「意志推量」, 「未来」などとされる前出の{-keyss-}が付き略体上称疑問形になった文である。尊敬接尾辞を重出させ分析否定の文にした

(11) pilly-e cwu-si-ci anh-usi-keyss-e-yo?

借りて くれる-尊敬-動名詞化接辞 しない-尊敬-意志推量-半言疑問-丁寧

とすればさらに懇切な懇願となる。

[13] あの人は中国語が読めます。／あの人は中国語を読むことができます。

ku salam-un cwungkwuke-lul ilk-ul swu isseyo.

その 人-は 中国語-を 読む-未実現連体形 すべ ある-半言疑問-丁寧

{-ul swu iss-}は, 用言の未実現連体形に「可能」の意味の形式名詞がつき存在を表す「ある・いる」に相当する用言が付いた形で, 「～できる」, 「～であり得る」という可能一般を表すのに最もよく使われる形式である。日本語の「中国語を/中国語が読める」のように主格との交替は起こさない。

(12) cwungkwuke-lul ilk-ul cwul al-a-yo.

中国語-を 読む-未実現連体形 すべ 知っている-半言疑問-丁寧

のような{-ul cwul al-} (lit. ～すべきすべを知っている)は訓練の結果できるようになった能力を表すが{-ul swu iss-}で代用が可能である。

(13) cwungkwuke tokhay-ka twayyo.

中国語 読解が 成ります。

(14) i muncang haysek-i twayyo?

この 文 解釈が 成りますか

この文解釈できますか。

のように「名詞-が成る」に相当する形で能力可能を言うことも多い。

[14] 明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。

pulpich-i etwuw-ese yeki mwelako sse(-e) iss-nunci ilkul swu-ka epsta.
灯りが 暗く-て ここ 何-て 書いて-ある-のか 読む-未実現連体形 形式名詞-が ない

{-ul swu eps-}は、用言の未実現連体形に「可能」の意味の形式名詞がつき不存在を表す「ない・いない」に相当する用言が付いた形で「～できない」、「～であり得ない」という不可能一般を表す。[13]の「ある・いる」が「ない・いない」に取り替わった形式で、能力可能、状況可能の双方に使われる。能力可能{-ul cwul al-} (lit. ～すべきすべを知っている)の否定形{-ul cwul molu-} (lit. ～すべきすべを知らない)は[14]には用いることが出来ない。能力不可能、状況不可能には副詞 mos を用いた次のような表現も可能である。

(15) pulpich-i etwuw-ese yeki mwelako sse(-e) iss-nunci mos ilk-keyss-ta..
灯りが 暗く-て ここ 何-て 書いて-ある-のか 不可能 読む-意志推量-下称陳述

不可能を意味する副詞 mos と動詞に接尾辞{-keyss-}を付けた形は、状況不可能、能力不可能、「とても取って～出来ない」の意味を表す。さらにその分析的表現

(16) ilk-ci mos-ha-keyss-ta.
読む-動名詞化接辞 不可能-する-意志推量-下称陳述

も可能である。

[15] (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ。／もう着いたに違いない。

(achim ilccik chwulpal-ha-yess-unikka) ku-tul-un imi tochak-ha-yss-ul kes-ita.
(朝 早く 出発-した-から) かれらは もう 到着した-未実現連体形 ことだ

未実現連体形に形式名詞 kes (こと)+コピュラの形式は意志・推量を表すが、前に過去の接尾辞{-ess-}が付いた場合、推量を表す。この場合の推量はかなり確信度の高い推量である。形式名詞 the (はず)+コピュラの形式はより確信度が高いが現代口語では例文(17)のように後に婉曲形-ntey (～だが)が付いた形しか用いず「いぶかしみ」を表す。

(17) tochak-ha-yss-ul the-y-ntey.
到着した-未実現連体形 はず-だ-が

- (18) tochak-ha-yss-um-i hwaksil-hata.
 到着した-動名詞形成接尾辞-が 確実だ
- (19) tochak-ha-yss-um-i thulli-m eps-ta.
 到着した-動名詞形成接尾辞-が 間違える-派生名詞形成接尾辞 ない

(18)(19)のように「～したことが確実だ/間違いない」のような言い方もされる。

[16] (あの人は) 今日हतぶん来ないだろう。

(ku salam-un) onul-un ama an o-l ke-ya.
 あの人は 今日-は たぶん 否定副詞 来る-未実現連体形 こと-だ

[15]と同じ形式を用いる。

- (20) (ku salam-un) onul-un ama an o-lkel.
 あの人は 今日-は たぶん 否定副詞 来る-だろろうに
- (21) onul-un an o-llana.
 今日-は 否定副詞 来る-だろろうかなあ

(20)は{-yl kes-yl}すなわち未実現連体形に「もの+を」がついた「～しようものを」が語尾化したもので「詠嘆」的ニュアンスを持つ(日本語の終助詞「もん」の文法化と似る)。(21)は危惧のニュアンスを持つ。

[17] 彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

ku-tul-i acik an o-tani philsil tocwung-ey
 かれ-ら-が まだ 否定副詞 来る-だなんて きっと 途中-で
 cha-ka kocang na-n key aniya?
 車-が 故障 出る-過去連体形 ことが 違うか

{-tani}は{-ta hani}の縮約形で「～する(と)言うに」。この場合の{-ta}はアオリストで時間的に特定付けられない事象を指す。{連体形+key ani-}の疑問形は{連体形+kes-i ani-} lit. 「～なのではない」である。

[18] さあ、(昼間だからあの人は家に) いるかもしれないし、いないかもしれない。

kulssey (nac-i-nikka ku salam-i cip-ey) iss-ul swu-to iss-ko
 さあ (昼-である-から その 人-が 家-に) いる-未実現連体形 すべ-も ある-し
 eps-ul swu-to iss-ci.
 いない-未実現連体形 すべ-も ある-だろろう

[13][14]の possible の形を用いるのが最も普通である。

[19] (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。

ne, amurayto yel-i iss-nun kes kathay.
おまえ どうも 熱が ある-現在連体形 こと 同じだ-半言陳述

{連体形+ kes kath-} 「～なこと同じだ」で推断をあらわす。視覚、聴覚、嗅覚、触覚の差は問わない。次のような言い方も可能である。

(22) yel-i iss-na po-a.
熱が ある-か 見る-半言陳述

等称疑問形(ひとりごと疑問形)に動詞「見る」が補助形容詞化した po-をつけて推断を表す。その場での判断というニュアンスが強い。

[20] (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。

nayil-un pi-ka o-ntay.
明日-は 雨-が 降る-伝聞形半言陳述

用言終止形に「言う」の意味の {ha-} が付き、縮約を起こした伝聞形がある。o-ntay は、o-nta hay (降る 言う半言陳述) の縮約形である。上称・中称・等称・下称形の縮約は「～だ そうだ」と「～なんだ」という伝聞と強調の二つの意味を持つ。

(23) pi-ka o-ntanta.
雨が 降るって降るんだよ

これは「～だと 彼が/私が 言う」の二つの意味に解釈し得るからである。一方、[20] のような半言および略体上称は伝聞の意味しかもたない。

[21] もしお金があつたら、あの車を買うんだけどなあ。

ton-i iss-ess-umyen ce cha-lul sa-l the-y-ntey.
お金-が あつた-なら あの 車-を 買う-未実現連体形 はず-である-のだが

過去語幹形成接尾辞 {-ess-} が条件接続語尾 {-umyen} に前接されることで「反実」仮想の意味が強くなる。主節の文末形式は(17)と同じである。

[22] もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

kalucy-e cwu-si-ci anh-ass-umyen na-nun keki-kkaci

教え-てくれる-尊敬-動名詞化接辞 しなかった-なら 私は そこまで

ka-l swu eps-ess-keyss-ci-yo.

行く-未実現連体形 すべ ない-意志推量-だろう-丁寧

[23] (あの人は) 街へ行きたがっている。

(ku salam-un) sinay-ey naka-ko siph-e ha-nta.

あの 人は 市内に 出-たい-~がる-下称陳述

3人称主語の場合{-ko siph-}「~したい」に「形容詞+~がる」を意味する{-e ha-}を付ける。

[24] 僕にもそれを少し飲ませろ。

na-to com masi-key hay cw-e.

私-も ちょっと 飲む-ように してくれ

「飲ませる」のような使役形の分析的形式{-key ha-} (lit. ~するようにする)の命令形を用いるが、次のような言い方も自然である。

(24) na-to com masi-ca.

私-も ちょっと 飲む-う

(24)は勧誘形であるが、勧誘形には「私に~させてくれ」の意味がある。次の例も参照。

(25) eti, na-to com po-ca.

どこ 私-も ちょっと 見よ-う (どれどれ、私にも見せて)

(26) (バスなどで降車の意志を表明する際)

nayli-psita.

降り-ましょう (降ろして下さい降ります)

[25] これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。

ikes-un ku salam-hanthey tulli-e ponai-ca.

これは あの 人に 持たせて 送ろ-う

ムードの問題ではないが、「持って行く tul-ko ka-」は「持って行かせる」にする際、前後のヴォイスを使役形に変えて一致させ、「テ」に相当する形も変る。

[26] そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。

ku theipul wi-uy kwaca-nun nacwung-ey mek-e.
その テーブル 上-の 菓子-は あとで 食べる-半言命令

[27] もっと早く来ればよかった。

te ppalli w-ass-umyen coh-ass-ul the-y-ntey.
もっと早く 来-た-なら よかった-未実現連体形 はず-である-のだが

(26) te ppalli o-lkel kulayssta.
もっと早く 来るものを そうした

例文(20)の形式にさらに kule- (lit. そうする)の過去形を付けると、「後悔」を表す分析的形式となる。

[28] あなたも一緒に行ったら（どうですか）？

ne-to hamkkey ka-myen ettay?
お前-も 一緒に 行けば どう

条件形で終わらせると、日本語と違い舌足らずである。日本語の「～したら」に相当する形は次のように言う。

(27) ne-to hamkkey ka-ci kulay.
お前-も 一緒に 行く-確言形半言 そうせよ

例文(26)のように kule- (lit. そうする)を用いる分析的形式である。

[29] オレがそんなこと知るか。

nay-ka kulen ke al-keyss-e?
私-が そんな こと 知って-い-そう-か

ソウルっばい言い方である。慶尚南道方言話者に聞いた一番自然な方言形は

(28) kə-l nE a-na?⁷⁾
それを 俺-が 知っている-か

である。ムード接尾辞の比較方言学的研究は積み残されている。

[30] これを作った(料理した)のは、お母さんだよな? いいえ、私が作ったのよ。

ike	mantu-n	salam	emeni-(i)-ci?	ani,	nay-ka	haysse.
これ	作る-過去連体形	人	母-(である)-確言疑問半言形	いや	私-が	作った

1 で述べたように日本語の終助詞相当のさまざまなムードが朝鮮語では総合的屈折形式として現れ、それらの体系的記述がまずなされねばならない。

注

- 1) 本稿の朝鮮語の転写は現代語、中世語ともに Yale 式による。中世語で注意すべき転写は以下のとおりである。ㄱ wo, ㅇ o, 唇軽音 W, 半歯音 z.
- 2) 「する」の意の ho-で代表する。形式の名称は高永根(1998)による。
- 3) 確認法接尾辞{-ke/-e-}の名づけは終止形における機能に基づく。{-ya-}は副動詞語尾{-e-}の異形態である。話し手が自分自身に向かって「(なるほど)~したわ」と独白的に確認するムードで、{-ke/-e-}は動詞の「自/他」によって選択される。現代語では{-keni}「自分としては~だと(思っただ)」に保たれている。中世語でも連体形に出る{-ke/-e-}にはそうした機能はない。
- 4) 終止形の{-Ø-} : {-te-}はそうではない。
- 5) 菅野裕臣ほか(1988)の記述に基づくが若干の改変を加えてある。語形が複数ある場合は1つで代表させた。*印は同書の表にない語形である。同書 pp.1023-1025 参照。
- 6) コンサルタントとして NYJ 氏(1963年, ソウル), SMN 氏(1984年, 蔚山), KSY (1986年, 釜山)にご協力いただいた。カッコ内は生年, 生育地の順。ソウル方言話者の NYJ 氏の答えに主による。
- 7) ソウル語の/e/と/u/は慶尚道方言では/a/に, /ay/と/ey/は/E/で現れる。

参考文献

和文

菅野裕臣ほか 1988 『コスモス朝和辞典』白水社, 東京
 梅田博之監修 2004 『韓国語概説』大修館書店, 東京

韓文

高永根 1998 『中世國語 uy 時相 kwa 叙法』塔出版社, Seoul

NAM Ki-shim, KO Yong-kun 1985 *Phyocwun kwuke munpeplon*, 塔出版社, Seoul

SEO Cheong-soo 1996 *Kwuke munpep*, Hanyang tayhakkyo chwulphanwen, Seoul

英文

SOHN, Ho-Min 1999 *The Korean Language*, Cambridge University Press